

平成22年(第4回)みどりの学術賞受賞者

くろいわ つねよし
黒岩 常祥(68歳)立教大学大学院理学研究科特任教授、東京大学名誉教授

(功績概要)

葉緑体などの色素体及びミトコンドリアは、植物が太陽からエネルギーを取り入れるための必須の機能である光合成と細胞呼吸を担う細胞小器官(オルガネラ)である。黒岩氏は、細胞生物学の分野において、その分裂・増殖・遺伝の仕組みを世界で初めて解明するなど、「みどり」がどうやって繁栄していくかについての新たな理解につながる顕著な功績を挙げ、斯学の発展に貢献した。

すずき かずお
鈴木 和夫(65歳)東京大学名誉教授、独立行政法人 森林総合研究所理事長

(功績概要)

鈴木氏は、森林植物学の分野において、寄生から共生まで多様な生活型を示すナラタケ、マツタケとマツとの共生関係、松くい虫被害の原因であるマツ材線虫病などの研究を行い、森林における生物間の相互作用を明らかにして斯学の発展に貢献した。また、森林保護の分野において、樹木を診断・治療し、樹木の保護に関する知識の普及・指導を行う樹木医制度の創設・発展に尽力するなど社会に貢献した。

(年齢は平成22年4月23日現在)